

の理念の元に弱者の声を聞き漏らす事なく、少しでも

明るい将来を想像し実施する事が与えられた義務であ

ると思いますし、それを糧にこの難局を乗り越えてい

きたいものです。

始まってから二年も経ち、そろそろトンネルの出口が近いかな？という雰囲気を感じられないでもない今日この頃のコロナ禍状況ではありますが、まだまだ

引き続き気を緩めることなく、これまで同様注意を怠らないことが肝要です。で、よろしくお願いいたします。

さて、コロナの話はこれくらいにして、以下は積善会にまつわる最新の（昔の？）トピックスです。図1をご覧ください。

①群馬県立代用精神病院の「厩橋病院」、②「厩橋療養所十全病院」、③「厩橋診療所」の出張所である「厩橋診療所」(内科、小児科、精神科の外来)の

三ヶ所の事業所を運営していることを示しています。①、②はともに前橋市外の桂萱村江木にあり、上毛電鉄江木停留所前であると説明されています。そして、③の厩橋診療所の住所は前橋積善会の本部と同じ前橋市萱(かや)町(まち)三六で、電話番号も共通なので、③は積善会本部建物内にあったことが読み取れます。①の県立代用精神病院というのは、県立の精神病院がなかったため、一九三〇(昭和五)

年〜一九五八(昭和三十三年)の間は当院が群馬県の代用精神病院として指定されていたためです。②はベッド数五十の結核病院で、後の十全病院(ベッド数二百余りで、現あそか会の敷地内にあった結核専門の病院)の前身です。



図2：萱町36番地の積善会本部および厩橋診療所



厩橋病院長 天谷 太郎

さて、前橋積善会本部と③当院のサテライト診療所であった厩橋診療所の長い歴史の中で何回も移転を繰り返しており、ときに同じ建物内になったり、後を追うのが困難なレベルで転々としています。この広告の萱町三六は、一九三八(昭和十三)年から十八年間ほど両者が最終的に仲良く落ち着いた場所になります。では、この萱町三六とは一体どこなのでしょう？次の図2は、萱町三六を現代の地図にブ

ロットしたものです。かなり以前のことですが、往時を知っている年配の職員から中央前橋駅のそばに厩橋診療所があったと言う話は聞かれています。しかし、ピンポイントでどこにあったのかまでは、聞いていませんでした。駅の裏側に駅舎と並行して建つ相当古びた感じの二階建ての細長いビルが今でもありますが、私はそのビルの一角にあったのではないかなどと勝手に想像していたのですが、間違っていました。今回、その正確

は、当院でも職員の同居家族が感染し、職員自身がその濃厚接触者となるといった例が次々と出ています。職員自身が感染してしまうケースもチラホラと始めていますが、幸い今までのところ院内での二次感染は起こっていません。院内での感染を起さぬようさまざまな感染対策をみんなが実践することで、すぐそこまで来ている新型コロナウイルスの院内侵入を、(運の手助けも借りながら)これまでのところは、引

い。これは、一九五三年(昭和二十八)に発行された『前橋商工案内図』(当時のタウンページ)に掲載されて



図1：積善会広告(昭和28年)

きたものです。

3 会報 積善 第106号